

2022年3月期 決算説明会



株式会社 東邦システムサイエンス

<https://www.tss.co.jp/>

証券コード：4333 東京証券取引所 プライム市場

目次

1. 2022年3月期 業績
2. 2023年3月期 業績見通し
3. 当社の目指す姿（長期経営ビジョン2030）
4. 中期経営計画（2022年度～2027年度）
5. 参考資料

1. 2022年3月期 業績

日本経済

当事業年度における日本経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が続くなか、ワクチン接種の普及拡大や緊急事態宣言の解除等により徐々に回復の動きがみられた一方、**年度後半にかけて、世界的なサプライチェーンにおける供給面での制約、原材料価格の動向による下振れリスク、ロシア・ウクライナ情勢による経済不安等、新たな懸念事項**が発生しました。

情報 サービス業

特定サービス産業動態統計（2022年2月分確報）によると**売上高は前年同月比5.8%増と11か月連続で増加し、受注ソフトウェアにおけるシステムインテグレーションは同1.6%増加**となっており、企業のデジタル経営志向の強まりを受け、**DX(デジタルトランスフォーメーション)**を中心に企業の投資需要が活況な状況にありました。

主要アカウントに対する戦略強化

営業力強化による案件獲得力の向上

業務力・IT技術力の強化による受注力向上

組織的プロジェクトマネジメント力の徹底強化

採用の強化（新卒、キャリア採用数増）

自社内への持ち帰り開発の推進

M&A要件の整理と情報収集、マッチング検討

(単位：百万円)

	2021.3月期	2022.3月期	増減額	増減率(%)
売上高	12,189	14,211	2,021	16.6%
売上総利益 (売上総利益率)	2,169 17.8%	2,531 17.8%	361	16.7%
販売費および一般管理費	1,093	1,203	110	10.1%
営業利益 (営業利益率)	1,076 8.8%	1,327 9.3%	251	23.3%
経常利益 (経常利益率)	1,085 8.9%	1,337 9.4%	251	23.2%
当期純利益	748	942	194	25.9%

(単位：百万円)

セグメント	2021.3月期	2022.3月期	増減額	増減率(%)
ソフトウェア開発	11,916	13,947	2,030	17.0%
金融	9,360	10,534	1,173	12.5%
非金融	2,556	3,413	857	33.5%
情報システムサービス等	272	263	△8.6	△3.2%
合 計	12,189	14,211	2,021	16.6%

(単位：百万円)

業 種	2021.3月期	2022.3月期	増減額	増減率(%)
金 融	9,360	10,534	1,173	12.5%
銀行	1,102	1,789	687	62.4%
証券	1,643	1,768	124	7.6%
生命保険	2,642	2,703	61	2.3%
損害保険	3,510	3,776	266	7.6%
その他	462	495	33	7.2%
非 金 融	2,556	3,413	857	33.5%
通信	1,194	1,788	593	49.7%
その他	1,361	1,625	264	19.4%

セグメント	業種	売上高増減要因
金融	銀行	(+++) 制度改定対応及び市場系保守領域の拡大
	証券	(+) 勘定系やモバイルシステム開発案件の拡大
	生命保険	(+) 基幹系システム刷新、フロント系システム開発
	損害保険	(+) 大手損保基幹系システムの統合に伴う移行開発
	その他	(+) カード・クレジット系システム構築
非金融	通信	(++) 大手通信キャリアのフロントシステム開発
	その他	(++) 医療福祉系システムの大規模テーマ開発

(単位：百万円)



News Release



2022年3月14日

各 位

株式会社東邦システムサイエンス

CHEER証券システム運用サービス受託のお知らせ

株式会社東邦システムサイエンス（本社：東京都文京区、代表取締役社長：小坂 友康）は、「東海東京フィナンシャル・ホールディングス株式会社」のグループ会社でスマートフォン専門証券会社であるCHEER証券株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：小林伸行、以下：「CHEER証券」）の新規開業に向けて、システム開発及びシステム基盤構築の一部に携わってまいりましたが、この度システム運用及び運用監視業務を受託した事をお知らせいたします。

CHEER証券は、近年のスマートフォンの普及やデジタル化の進展を背景とした資産形成層のお客さまのニーズに対応した金融サービスの提供を目的として設立され、当社が培ってまいりました業務運用ノウハウを投入し、当社の新たなビジネスモデルとして24時間365日のシステム運用及び運用監視サービスを提供いたします。

当社は「お客様が求める価値を共に創造し実現すると共にその先にある社会課題の解決を図り、持続可能な未来社会を創造する」を経営ビジョンとして掲げており、CHEER証券の今後の更なる機能拡充等にも対応すべく、業務システムのコンサルティングから、基盤構築、開発、運用保守のBPO化【Business Process Outsourcing】など、ワンストップでサービス提供することを目指し、CHEER証券のDX戦略をトータルでご支援してまいります。

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社東邦システムサイエンス 総務部 IR担当
電話番号 03-3868-6060

以 上

当社は 「東海東京フィナンシャル・ホールディングス株式会社」のグループ会社でスマートフォン専門証券会社である**CHEER証券株式会社の新規開業に向けて**、システム開発及びシステム基盤構築の一部に携わってまいりましたが、この度**システム運用及び運用監視業務を受注**した事をお知らせいたします。

CHEER証券は、近年のスマートフォンの普及やデジタル化の進展を背景とした資産形成層のお客さまのニーズに対応した金融サービスの提供を目的として設立され、**当社が培ってまいりました業務運用ノウハウを投入し、当社の新たなビジネスモデルとして24時間365日のシステム運用及び運用監視サービスを提供**いたします。

当社は「お客様が求める価値を共に創造し実現すると共にその先にある社会課題の解決を図り、持続可能な未来社会を創造する」を経営ビジョンとして掲げており、**CHEER証券の今後の更なる機能拡充等にも対応すべく、業務システムのコンサルティングから、基盤構築、開発、運用保守のBPO化**【Business Process Outsourcing】など、ワンストップでサービス提供することを目指し、**CHEER証券のDX戦略をトータルでご支援**してまいります。

2. 2023年3月期 業績見通し

日本経済

【4月21日 内閣府発表 「月例経済報告」より】
景気は、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が緩和される中で、**持ち直しの動きがみられる。**

【4月1日 「日銀短観」（2022年3月調査）】
大企業は、**製造業、非製造業ともに7四半期ぶりに悪化**した。
資源価格の高騰や変異株の流行などにより景況感を押し下げた。

情報 サービス業

【4月22日 経済産業省「特定サービス産業動態統計」より】
・2月の売上高は、前年同月比5.8%増
当社が主力とする受注ソフトウェアは同2.3%の増加

【4月1日 日銀短観（2022年3月調査）】
・**金融機関の2022年度計画値（ソフトウェア投資額）は10.2%の増加**

【4月30日 JISA「JISA-DI調査」より】
・**4～6月の売上高予測は、前調査（1～3月）からプラス幅は減少（37.3→24.6ポイント）**
・2022年3月の**雇用判断DIは63.2ポイントで依然として技術者不足**

金融	銀行	<ul style="list-style-type: none"> 制度対応案件が収束するも、新たに資金証券系システム案件への参画やDX対応化に向けた協業依頼等により「堅調」
	証券	<ul style="list-style-type: none"> 基幹系システム対応案件の継続及びオープン系運用ビジネスの拡大により「堅調」
	生命保険	<ul style="list-style-type: none"> 基幹系（保全）システムのマイグレーション開発やフロント系システムの更改（営業支援端末更改）案件により「堅調」
	損害保険	<ul style="list-style-type: none"> 統合対応や基幹系（経理）システムのマイグレーション開発、システムのクラウドシフト等の対応により「堅調」
	その他	<ul style="list-style-type: none"> カード系顧客におけるパッケージ更改案件、電子マネーの決済系システムに関わる新規・更改案件により「堅調」
非金融	通信	<ul style="list-style-type: none"> 大手通信キャリアのフロント系システム対応（アジャイル開発プロジェクト）の需要が旺盛で「堅調」
	その他	<ul style="list-style-type: none"> 公共系システム対応を中心に、物流や医療福祉等、幅広い領域での業務プロセス改革が活況で「大幅増」

(単位：百万円)

業種		2021.3月期	2022.3月期	増減額	増減率(%)
金融	銀行	224	287	63	28.1%
	証券	283	343	59	21.0%
	生命保険	463	480	16	3.6%
	損害保険	387	452	65	16.9%
	その他	92	116	24	26.1%
非金融	通信	305	361	55	18.3%
	その他	89	169	79	88.5%
合 計		1,846	2,211	364	19.7%

(単位：百万円)

	2022.3月期実績	2023.3月期予想	増減額	増減率(%)
売上高	14,211	15,000	789	5.6%
営業利益 (営業利益率)	1,327 9.3%	1,370 9.1%	42	3.2%
経常利益 (経常利益率)	1,337 9.4%	1,378 9.2%	40	3.0%
当期純利益	942	953	10	1.1%

1. 開発パワーの増強
(プロパー社員及びパートナー社員の増強と育成強化)
2. DX開発推進センターの設置
(活況なDX需要への対応とDX技術者のOJT育成)
3. 事業ポートフォリオの変更
(金融以外の通信、公共領域の事業拡大)
4. 顧客、パートナー、ベンチャー企業とのリレーション強化
(協業、M&A検討)
5. 株式流動性の確保、ガバナンス、リスク対応強化
(IR強化、株主施策検討、事業継続性確保)
6. サステナビリティ経営の推進
(委員会の設置、方針検討、各種施策の企画、推進)

人的投資

採用投資UP

初任給、ライン・スキル手当UP

人財マネジメントシステム構築

健康優良企業「銀」認定

→健康経営の増進（「金」認定へ）



事業向け投資

フロア増床（DX開発推進センターの設置）

新規事業推進（オープン系運用、プロダクト販売）

営業費の投資強化

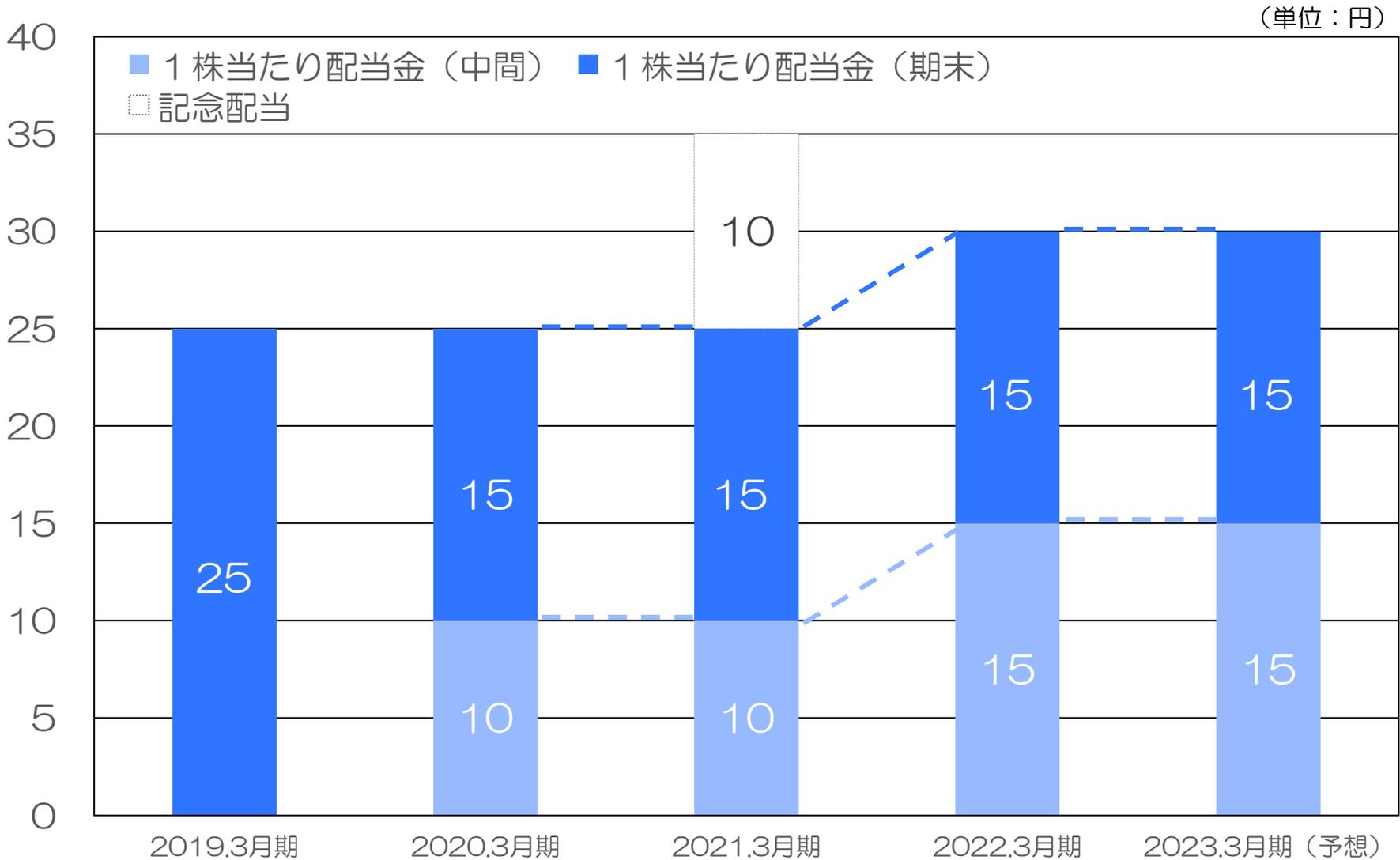
他社との協業、M&A推進

業務の効率化

クラウドを用いた作業環境の構築

セキュリティ強化

BCP対策



3. 当社の目指す姿（長期経営ビジョン2030）

ビジネス環境の変化

DX化の加速

- ・労働力の不足、消費者のニーズや価値観の変化、市場のグローバル化などにより、より一層の業務効率化や新たなサービスの創出が求められる

IT技術者に求められる役割

- ・SI事業の縮小や案件の小型化、DX化の加速に伴い、従来とは異なる技術者の役割が求められる。

サステナビリティ経営

- ・近代経営では、環境・社会・経済の持続可能性に配慮した事業のサステナビリティ（持続可能性）向上が求められる

東証市場再編の動き

- ・2022年4月4日、東証による市場再編に伴い、各企業は市場選択を迫られ、最上位のプライム市場には持続的な成長と中長期的な企業価値の向上が求められる

スローガン

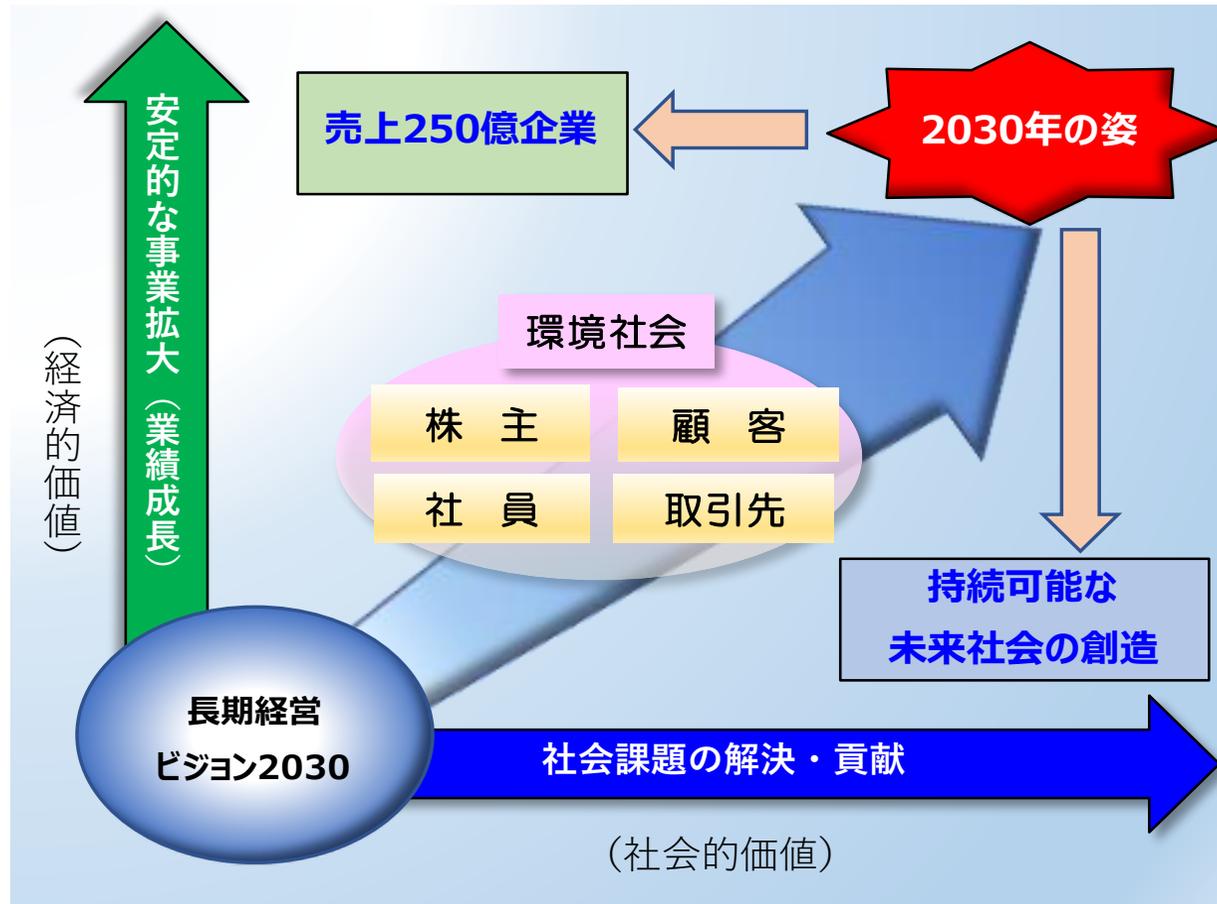
お客様と共に未来を創る

Vision

お客様が求める価値を共に創造し実現すると共に
その先にある社会課題の解決を図り、
持続可能な未来社会を創造する。

当社の目指す姿（全体像）

経済的価値の拡大と、持続可能な社会の実現に向けた社会的価値の拡大を図り
当社の企業価値の最大化を目指します



		2020年度	2030年度
事業収益	売上高	121.8億	250億
	営業利益	10.7億	25億以上
	営業利益率	8.8%	10%以上
経営効率	ROE	10.2%	15%以上
株主還元	配当性向目標	30%	40%以上

当社の目指す姿 (マテリアリティ)

マテリアリティ	関連するSDGs目標	具体的な開発事例 自社対応等
豊かな未来社会	   	<ul style="list-style-type: none"> ・通信サービスシステム開発 ・各種DX対応開発 ・パートナー会社との協業
安心・安全な未来社会	    	<ul style="list-style-type: none"> ・生命保険、損害保険システム開発 ・災害対策システム開発 ・電力供給システム開発
いきがいのある未来社会	     	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者向け対話サービス開発 ・多様な人材の雇用機会の創出 ・充実した教育体制
透明性の高いガバナンス	  	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンスの遵守 ・透明、公正な意思決定プロセス

4. 中期経営計画（2022年度～2027年度）

1. 技術者不足への対応
(新卒・中途の採用増、DX開発推進センター内でのOJT育成)
2. 活況なデジタルビジネスへの対応
(データ分析、非接触・非対面といった価値創出ビジネスの受注)
3. 事業ポートフォリオの見直し
(DXオーダーが活況な金融以外の通信、公共領域の事業拡大)
4. 人月ビジネスからの脱却
(リトを「作る」から「使う」へのシフト、サービス提供型ビジネス構築へ)
5. 株式流動性の確保とガバナンス強化
(プライム市場維持)
6. サステナビリティ経営の推進
(委員会の設置、方針検討、各種施策の企画、推進)

革新

【TIB2.0】 トラディショナルITビジネス2.0（売上115億）

【方針】 お客様の大切なソフトウェア資産を高い品質レベルで維持管理

挑戦

【DIB2.0】 デジタルITビジネス2.0（売上80億）

【方針】 お客様が構築する新たな付加価値サービスの支援

創造

【CIB2.0】 クリエイトITビジネス2.0（売上5億）

【方針】 自分達が生み出すサービスで企業や社会に貢献

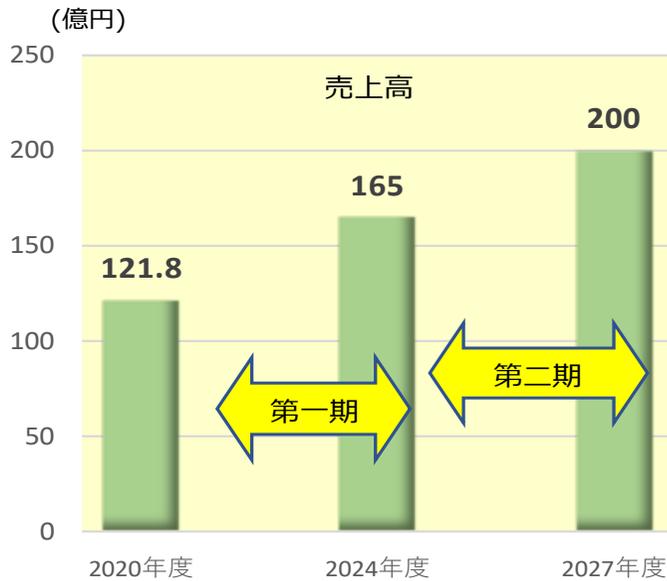
強化

経営基盤の強化2.0

【方針】 DX人材確保育成、高い株式流動性の確保、ガバナンス強化、サステナビリティ推進

業績目標

	2020年度	→	2024年度	→	2027年度
売上高	121.8億		165億		200億
営業利益	10.7億		15.8億		20億
営業利益率	8.8%		9.6%		10.0%
ROE	10.2%		11.4%		12.5%



5. 参考資料

(単位：百万円)

前事業年度
(2021年3月31日)

当事業年度
(2022年3月31日)

資産の部

流動資産	9,988	10,648
固定資産	1,395	1,482
資産合計	11,383	12,131

負債の部

流動負債	1,741	1,886
固定負債	2,062	2,122
負債合計	3,804	4,008

純資産の部

株主資本	7,345	7,839
評価・換算差額等	233	283
純資産合計	7,579	8,122
負債純資産合計	11,383	12,131

■ IRメール配信登録のご案内 ■

当社の企業ニュースや最新のお知らせなどの
IR情報をメール配信いたします。

登録方法

当社WebサイトのIR情報ページにて、
「IRメール配信登録」をクリックして、
メールアドレスをご登録ください。



当社WebサイトのIR情報ページへのアクセス

<https://www.tss.co.jp/内のIR情報>
をクリックしてお入りください。

IR 情報
IR information

を

■ IRサイトリニューアルのお知らせ ■

6月1日に当社WebサイトのIR情報ページを
リニューアルしました。



最適なシステムソリューションを 提供する高信頼企業！

皆様におかれましては、今後ともご支援のほど、
よろしくお願い申し上げます。

* 本資料についてのご注意

本資料は、2022年3月期の業績および今後の業績見通しに関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料に記載されている株式会社東邦システムサイエンスの将来予想に関する事項は、現時点における情報に基づき判断したものであり、予想に内在する不確定要因や今後の事業運営における状況変化等により変動することがあります。

なお、いかなる目的であれ、本資料を無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。